

平成28年度 自己評価計画書（中間報告）

石川県立宝達高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 達成度判断基準 | 中間評価 | |
|------|--|------------|--|---|---|--|---|
| 1 | 分かる授業を 実践すること によって、基 礎学力の定着 と思考力・判 断力・表現力 の育成を図 り、キャリア 教育の実践と 3年間の進路 指導態勢の充 実を図り、進 路志望100% 実現を目指す。 ・ICTや学び 直しの効果的 な活用と評価 及びアクティ ブ・ラーニン グの充実を図 り、生徒の学 ぶ意欲を喚起 する。 ・学習規律を 遵守させる指 導を徹底し、 学習習慣の確 立を組織的に 指導する。 | 各教科 教務課 | 朝学習で基本事項の 学習をしたり、授業の 中でも学び直しの内 容を積極的に指導し ている。また、石川県 指定の「地域交流によ る高等学校活性化事 業」で作成した国語・ 数学・英語の学び直し 教材を活用している。 | 【努力指標】 学び直し教 材の効果的 な活用を図 る。 | 学び直しのための教材を作 成し、活用した教員の割合 が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満 | 教職員調査 (7月実施) 肯定的評価 A(42.9)+B(42.9) =85.8% 達成度：D | 昨年度の同時期(90.4%)と比べ て、4.6ポイント減少した。より 効果的に取り入れようとする教 員は増えたが(2名増)全体と して達成度が下がったため、2学 期以降の授業では積極的に取り 入れ学習意欲の喚起を図る工夫 を重ねたい。 |
| | 書画カメラやパワー ポイントなどのICT を活用し、映像や視 覚的な効果を取り入 れ、学習意欲を喚起 し、授業改善を図る。 | 各教科 教務課 | 常設プロジェクター の他、手持ちのプロジ ェクターも活用して、 ICTの利便性を図っ ており、それを活用し て授業を行う教員が 増えている。 | 【努力指標】 ICTの効果 的な活用を 図る。 | 職員がICTを年間に活用し た回数が一人平均で A：70回 以上 B：60回 以上 C：50回 以上 D：50回 未満 ICTの活用により、学習意 欲が高まったと感じている 生徒の割合が A：70% 以上 B：60% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満 | 教職員調査 (7月末) 21名で624回使 用 平均29.7回 達成度：D 生徒調査 (7月実施) A(23.0)+B(52.5) =75.5% 達成度：A | ICT利用の授業は4月～7月 までの集計であり、年度末にはA 評価まで伸びる可能性が高い。た だ、4ヶ月で数回に留まっている 教職員もいるので気軽に授業に 利用できる意識を持って取り組 むようにしたい。 生徒は、ICTの利用によって学 習へのきっかけや意欲が高まっ たと感じている割合が高いが、一 方授業評価では55%で昨年より 2ポイント減少。教員によって活 用率に温度差があるためだと思 われる。校内研修を重ね、全体の スキルアップに努めていきたい。 |
| | 「学びの4か条」や 学習規律の遵守に努 め、主体的に授業に 取り組む態度の定着 を図る。 | 各教科 教務課 | 「学びの4か条」を掲 示し、挨拶や学習規律 の指導に努めている が、十分とは言えな い。学習意欲を高める 授業改善とともに学 習規律の確立に努め る必要がある。 | 【成果指標】 授業で学習 規律の確立 を図ってい る。 | 学習規律を守っている生徒 の割合が A：95% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満 | 教職員調査 (7月実施) A(42.9)+B(47.6) =90.5% 達成度：B 生徒調査 (7月実施) A(36.9)+B(47.6) =84.5% 達成度：C | 授業での学習規律を確保出来て いないとする教員が数名いるの で、全校の共通理解として100% を目指して規律の徹底に努めた い。(昨年同期100%) 一方で、自身が規律を守ってい ないと考えている生徒も少な からずいるので、授業のみならず 様々な場面を利用して指導を続 けたい。 |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 達成度判断基準 | 中間評価 | |
|------|---|------------------|---|---|--|---|---|
| 1 | アクティブ・ラーニングの充実を図り、生徒の学ぶ意欲を喚起するとともに、分かる授業づくりを実践し、基礎学力の定着を図る。 | 各教科 教務課 | グループ活動等を通して、「話す」「発表する」などアクティブ・ラーニング型の授業を取り入れることにより、思考力・判断力・表現力の育成を図る必要がある。 | 【努力指標】 生徒に発表等の主体的に活動する機会を与えている。 | アクティブ・ラーニング型の授業を取り入れている教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満 | 教職員調査 (7月実施) A(14.3)+B(81.0) =95.3 達成度：A | アクティブ・ラーニングを取り入れた授業は増えている(4月～7月で一人平均20.8回)、生徒への授業評価アンケートでは、アクティブラーニングを通して思考力・表現力が高まったとする割合は66%とさほど高くないので、今後も効果を上げるための工夫が必要である。 |
| | 全校で取り組んでいる家庭学習教材の点検や授業で使用する課題プリント、週末課題等を生徒に提供し、計画的に学習に取り組ませる。 | 各教科 教務課 | 昨年度は平日60分以上45.8%、休日120分以上20.9%であり、増加傾向にある。しかし、個々の生徒の進路実現には不十分な現状であるため、組織的な取組を継続する。 | 【成果指標】 平日60分以上、休日120分以上の学習時間を確保するよう働きかける。 | 家庭学習時間が平日60分以上、休日120分以上の生徒の割合が A：70% 以上 B：60% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満 | 生徒調査 (7月実施) 平日60分以上 H28 54.8% H27 35.2% 休日120分以上 H28 29.8% H27 15.1% 平日達成度：C 休日達成度：D | 平日60分以上は昨年同期より19.6ポイント上昇、休日120分以上は14.7ポイント増加した。各学年・各教科で、週末課題や宿題・課題の取組を行っている。今後も粘り強く指導する必要がある。生徒への授業評価では、予習復習をしている生徒の割合は67%と高くない。特に1年生は前年比16ポイント減(55%)のため全教職員で徹底した指導を行いたい。 |
| | 上級学校理解・職業理解などを通じて、生徒の進路意識を向上させ、早期に進路目標を設定することができるよう指導し、目標とする進路実現のために学習に主体的に取り組むよう、各学年のキャリア教育を段階的・系統的に関連付けて実施する。 | 進路指 導課 各学年 | 進路実現のために、基礎学力の底上げに継続的に取り組み、「卒業生と語る会」、各学年「進路ガイダンス」(就職・進学)、1年「企業・大学見学」、2・3年「インターンシップ」などを実施し、生徒の進路意識を高める取り組みを学年段階に応じて適切に行う必要がある。 | 【満足度指標】 生徒が各学年のキャリア学習が、上級学校理解・職業理解などを通じて進路選択に役立っていると感じる。 | 各学年のキャリア学習が進路選択に役立っていると感じる生徒の割合が A：85% 以上 B：75% 以上 C：65% 以上 D：65% 未満 | 生徒調査 (7月実施) A(45.2)+B(36.3) =81.5% 達成度：B | 前年度同時期は68.8%であったため、本年度のキャリア学習は、各学年において、特に次の点に留意して実施している。すなわち、生徒の資質的伸張に配慮した3年計画、校内・校外のバランス、講義形式・参加型等の多様な形式である。職員全員での取り組みの成果もあり、役立っているという生徒が12.7ポイント増加した。 |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 達成度判断基準 | 中間評価 | |
|------|--|--------------|---|---|---|---|--|
| 1 | ホーム担任が、卒業後の進路に対する個々の生徒の思いや情報が把握できる面談シートを活用し、個人面談を適時適切に行うよう努め、進路意識の向上と進路実現を目指す。 | 進路指導課 各学年 | 個人面談が進路意識の深まりや進路学習に効果があったとする生徒の割合が向上するように、面談を質・量ともに充実させ、生徒の学習状況・家庭状況を的確に把握し、進路決定や悩みの解消に努める必要がある。 | 【満足度指標】 個人面談が進路意識の深まりやキャリア学習への取組に役立つようにする。 | 個人面談が進路意識の深まりやキャリア学習への取組に効果があったとする生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満 | 生徒調査 (7月実施) A(33.9)+B(44.6) =78.5% 達成度：B | 前年度同時期は68.3%であり、効果ありという生徒が約10ポイント増加した。これは、各担任が面談において、定期試験の成績のみならず、出欠や部活動の状況等、生徒の活動全般を捉え、同時に行事等での全体指導の取り組みでの様子にも言及するなど、常に自己の日常的活動とキャリア学習を結びつけ、進路意識を持ち続けるよう指導している成果の一端と見られる。 |
| | 進路ガイダンス、模擬試験、補習、小論文、面接指導などの系統的・段階的な取組を実施し、生徒の進路志望100%実現を目指す。 | 進路指導課 各学年 | 昨年度は、就職・進学ともに進路実現100%が達成された。大学志望者のうち国公立大に1名合格し、成果を上げた。教材を精選し、全体指導や個別指導等のきめ細かい指導を継続的・効果的に取り入れ、今年度も進路実現100%を目指していく。 | 【成果指標】 生徒の進路志望が就職・進学とも実現できた。 | 生徒の進路志望の実現率が A：就職・進学の進路実現100% 国公立大合格者2名以上 B：就職・進学の進路実現100% 国公立大合格者1名 C：就職・進学の進路実現100% 国公立大合格者なし D：就職・進学の進路実現100%未国公立大合格者なし 満 | 達成度がC、Dの場合指導法の改善に努める。 | 12月・年度末に集計(進路指導課) |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 達成度判断基準 | 中間評価 | |
|------|---|--------------|---|--------------------------------------|---|--|---|
| 2 | 生徒は、基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚に努め、挨拶の励行と社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を身に付けさせ、自ら考え、行動する自主自律の精神を持った社会人の資質を培う。 | 生徒指導課 各学年 | 挨拶を交わし、言葉遣いに注意している生徒は、昨年度は68%で、積極的に大きな声で挨拶ができるよう取組の工夫が求められる。社会人としてのマナーや規範意識の高揚につながるよう、毎月の服装・頭髪検査で指導の徹底が求められる。 | 【成果指標】 挨拶の励行や身だしなみがきちんとしている。 | 生徒同士や職員、外部の来客や地域の方々に対し、自分から進んで挨拶ができ、服装・頭髪的身だしなみがきちんとしていると答えた生徒の割合が A：95% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満 | 生徒調査(7月) 自ら進んで挨拶している生徒 A(22.6)+B(52.4)=75.0% 服装・頭髪がきちんとしている生徒 A(39.9)+B(49.4)=89.3% 達成度：C | 「自ら進んで挨拶ができる」生徒の割合は75.0%で前年度比3.5ポイント上昇。また、「服装・頭髪的身だしなみがきちんとしている」生徒の割合は89.3%で3.3ポイント増加した。日頃の授業や生徒会のあいさつ運動などを通してより一層きちんとした挨拶の指導を全教職員を挙げて取り組んでいきたい。 |
| | 全教職員が協働して、遅刻ゼロ運動を進める。 ・各学年の1日の平均遅刻人数を毎月集計する。 ・遅刻が0の日には、生徒玄関の掲示板や校内放送を使って報告し、生徒の意欲を高める。 ・個別面談等を行い、時間を守ることの意義や大切さを自覚させる。 | 生徒指導課 各学年 | 遅刻者が減少するように、生活習慣の改善を促しながら継続的な指導をしてきた結果、昨年度の、1日の平均遅刻者数は 1学年 5.7人 2学年 2.8人 3学年 3.9人 であった。保護者との連携を図りながら、全職員で組織的に指導する必要がある。 | 【成果指標】 1日の平均遅刻人数が減っている。 | 1日の平均遅刻者数指標 1学年 4人以内 2学年 3人以内 3学年 2人以内 1日の平均遅刻者数の達成率が A：各学年とも目標を達成した B：2つの学年が達成した C：1つの学年が達成した D：全学年が達成できなかった | 1学年 0.68人 2学年 2.27人 3学年 0.41人 達成度：A | 各ホーム担任が日頃、電話連絡をしたり、他の教職員との生徒の情報交換を密にしているため、目標を達成できている。また、全学年では遅刻する生徒は固定化されている。今後、固定化された生徒を減少させる指導に努めていきたい。 |
| | 個々の生徒に応じたきめ細かな面談と面談週間(6・10月)を通じ、ホーム担任、教科担当、部活動顧問やスクールカウンセラー等との連携により、学習や学校生活等の支援体制の充実を図る。 | 厚生課 各学年 | さまざまな悩みを抱える生徒に対して、スクールカウンセラー、地域サポート教員等との連携を一層充実させ、積極的な支援が必要である。 | 【満足度指標】 校内支援体制が満足できるものになるよう働きかける。 | 生徒の悩みに先生が相談に応じてくれていると答えた生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満 | 生徒調査(7月) 学習の悩みへの肯定的割合 A(36.3)+B(36.9)=73.2% 学校生活の悩みへの肯定的割合 A(35.7)+B(42.9)=78.6% 達成度：B | 7月実施の生徒アンケートでは、学習に関する質問や悩みに対して73.2%(前年度比+7.2ポイント)、学校生活の悩みに対しては78.6%(前年度比+13.1ポイント)の生徒が肯定的な評価をしている。夏休み明けは、さまざまな悩みを抱える生徒が増加することも予想されるので、積極的な支援を一層充実させていきたい。 |

| 重点目標 | | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 達成度判断基準 | 中間評価 | |
|------|--|--|-------------|--|--|--|---|--|
| 3 | 生徒と積極的にかかわりを持ち、部活動の一層の活性化・充実を図る。学校行事、生徒会活動、部活動、地域への貢献活動やボランティア活動で、生徒の自主性や参加意欲、成就感を育てるとともに、宝達高生としての母校への帰属意識や自己有用感の涵養に努め、人間性や社会性を磨く。 | 生徒会執行部や各種委員会、学級において、生徒一人ひとりが自らの役割を理解し、積極的に活動できるように指導する。 | 生徒会課 各学年 | 各種委員会や学級などにおける生徒の仕事内容に対して、教員間で十分共通理解を図り、的確な指導をする必要がある。 | 【満足度指標】 所属する委員会や係の役割を理解し、活動に取り組むことができた。 | 所属する係の仕事を理解し、活動することができたという生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満 | 生徒調査 (7月実施) A(41.7)+B(38.7) =80.4% 達成度：A | 係分担や委員会活動においては、80.4%の生徒が役割を理解し活動できたと回答している。(前年度比+10.5ポイント)学校祭を役割分担を意識付ける良い機会として捉え、今後の学校行事やクラス活動において一人ひとりが責任感や協力することを意識できるように取り組みを工夫していきたい。 |
| | | 生徒会と連携し、清掃の大切さを呼びかけ、平常清掃への積極的な参加を促す。また、環境整備委員等の働きかけによる美化コンクールを通じ、環境美化への意識を高める。 | 生徒会課 厚生課 | 昨年度は「進んで清掃活動に取り組んでいる」生徒の割合は80.7%であった。今年度は、環境整備委員による清掃時の呼びかけや掃除指導の機会を増やし、各生徒がより清掃活動の必要性を理解し、自主的に取り組めるよう働きかけていきたい。 | 【成果指標】 役割分担をし、協力して清掃活動に取り組む姿勢を培う。 | 役割分担をし、協力して清掃活動に取り組んでいる生徒の割合が A：90% B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満 | 生徒調査 (7月実施) A(45.8)+B(44.0) =89.8% 達成度：B | 昨年同期より、8.7ポイント増加した。清掃活動の大切さをしっかりと感じさせることができるよう、環境整備委員会との連携のもと指導していきたい。美化コンクールだけでなく、清掃時の呼びかけや普段の清掃役割分担など、活動が自主的なものとなるようコーディネートしていかなければならない。 |
| | | 部活動の組織的運営を図り、積極的に部活動に参加し、年間を通して継続的に取り組むことができるよう指導する。 | 生徒会課 各学年 | 年度当初は全員部活動に参加するが、後半には部活動に消極的な生徒が増えてくる。年度途中で退部してしまう生徒への指導に努めることにより、積極的な部活動への加入の取組を促す必要がある。 | 【成果指標】 継続的に部活動に取り組む姿勢を培う。 | 年間を通して部活動に参加して部活動を行っている生徒の割合が A：95% B：90% 以上 C：85% 以上 D：85% 未満 | 生徒調査 (7月実施) A(61.9)+B(20.2) =82.1% 達成度：D (部活動加入率99.4%) | 加入率は99.4%で部活動所属は指導できているが、部活動への参加に関しては、活動状況が良好であると判断している生徒は82.1%に留まっている。(前年度比+3.2ポイント)部活動に消極的な生徒に対し、面談等を通して積極的な活動となるように顧問、担任と連携して指導していきたい。 |

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 達成度判断基準 | 中間評価 | |
|------|--|-------------|--|---|--|---|--|
| 3 | | 生徒会課 各学年 | 生徒は、地域への貢献活動やボランティア活動に対する意識が高いとは言えず、一部の生徒の活動になっている。年々活動は盛んになりつつあるが、ボランティア活動に対する地域貢献の意識の高揚を図ることが求められる。 | 【成果指標】 地域への貢献活動やボランティア活動に取り組む姿勢を培う。 | 地域への貢献活動やボランティア活動に取り組んだと答えた生徒の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：60% 以上 D：60% 未満 | 生徒調査 (7月実施) A(34.5)+B(36.9) =71.4% 達成度：B | ボランティア活動に取り組んだと答えた生徒の割合が、昨年度と比較して、65.1% 71.4%と上昇。年間を通してボランティアバンクを立ち上げ、ボランティア活動に参加する生徒を募ってきており、意識は少しずつ高まってきているように感じる。今後もボランティア参加への呼びかけを継続し、地域貢献活動を意識できる生徒を育てたい。 |
| 4 | 積極的に保護者や地域に本校の良さや成果等の情報、提案等を発信するとともに、小・中学校との連携を一層密にし、保護者や地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。 | 総務課 各学年 | 配付物を保護者に届けた生徒の割合と、学校情報を知ることができた保護者の割合は、それぞれ70%後半であった。昨年度より導入した保護者・生徒によるメール配信登録者割合を更に高めて活用し、開かれた学校づくりに積極的に取り組みたい。 | 【満足度指標】 学校情報が保護者にきちんと届くように働きかける。 | 配付物を保護者に届けた生徒の割合と、学校情報を知ることができた保護者の割合は、それぞれが A：85% 以上 B：80% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満 | 生徒調査 (7月実施) A(50.6)+B(35.7) =86.3% 達成度：A 保護者調査 (7月実施) A(28.8)+B(57.7) =86.5% 達成度：A | 配付物を保護者に届けた生徒の割合が昨年度と比較して、80% 86.3%と上昇。学校情報を知ることができた保護者の割合が80.2% 86.5%と上昇。特にA評価が生徒、保護者共に10%上昇しており、メール配信システム導入2年目として、昨年度より有効に活用が図れていると思われる。今後、メール登録の割合を100%に近づけていきたい。 |
| | | | 「宝高だより」や「宝高タイムズ」(中学生対象)などの学校だよりの発行回数はすでに20回を超えており、学校行事を中心としたHP更新は、全ての行事を記事にしている。今年は、本校の情報発信の保護者満足度を充実させたい。 | 【満足度指標】 学校からの情報提供が保護者にとって、満足できるようなものになるよう取り組む。 | 学校からの情報提供が満足であったという保護者の割合が A：80% 以上 B：70% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満 | 保護者調査 (7月実施) A(28.8)+B(57.7) =86.5% 達成度：A | 学校からの配布物やHPなどを通して本校の教育活動の情報を得ることができる、という項目において、A評価が昨年度より18.1 28.8%と10%上昇している。メール配信を行い、学校からの情報提供が保護者に届く割合が高まったことにより、満足度も上昇したと思われる。今後きめ細かな情報発信に取り組んでいきたい。 |